

いちほまれ

いちほまれ栽培No.7

【生育調査状況と管理情報】



- 生育診断に基づく穂肥散布で収穫量アップ！
- 適期病害虫防除で品質向上！

6月下旬からまとまった雨の日が多く、猛暑日もありました。今後はさらなる高温が懸念され、台風やフェーン現象が起きた場合は事前に水を張り、高温や乾燥の被害を防ぐように気を付けましょう。また、7月中旬からニカメイチュウ、下旬頃に紋枯病の発生が懸念されますので、薬剤散布等で対策しましょう！

1. 生育調査結果

- 7月17日現在で幼穂長2mm、28.8本/株、葉色4.3となっています。
- 初期生育はおとなしく、次第に生育旺盛になりました。最高茎数は近年では少ないです。
- 葉色は初期には薄い状況でしたが、次第に濃くなり、現在も濃い状況にあります。

斑点米カメムシ発生注意報発令中



- 発生時期
7月下旬
- 発生量
平年より多く
前年よりやや多い
前年の約1.4倍

防除薬剤の準備をしましょう！

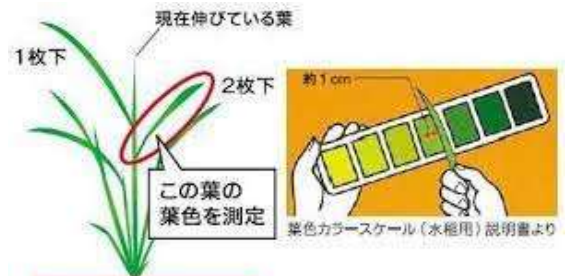
2. 穂肥について

【穂肥散布の判断について】

- 幼穂形成期から出穂期の葉色維持が重要。7～9月の気温は平年より高い予報が出ており、いちほまれが暑い夏を乗り越えるためにも葉色維持が必要です。
- 葉色4.0未満の場合は穂肥を検討しましょう。（葉色測定については右図参考）ただし、穂肥のやりすぎ、高地力圃場での追肥は高タンパク質の米になる可能性があるため、注意が必要です。
- 穂肥の目安
新エコ追肥（15－5－10）：7kg/10a（窒素1kg相当）

過度な肥料散布は倒伏の原因になります！
生育診断に基づいた穂肥散布をしましょう！

いちほまれの葉色測定



- 完全展開葉の上から2枚目の葉の真ん中に葉色板を当て、葉色を診断し、0.5引き算した値を「葉色値」として計算します。
- 葉色値 = 単葉葉色値 - 0.5

3. 病害虫対策について

● 紋枯病対策



紋枯病は幼穂形成期以降は上位進展する。
リンバー粒剤やバリダシン粉剤にて防除する。

薬剤名	使用量 (10aあたり)	使用時期
リンバー粒剤	3～4kg	収穫30日前まで
バリダシン粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで

● ニカメイチュウ対策



ニカメイチュウ被害は侵入初期は葉鞘が黄変する。

薬剤名	使用量 (10aあたり)	使用時期
パダン粒剤4	3～4kg	収穫30日前まで
スミチオン乳剤	60～150ℓ	収穫21日前まで